

銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町

JA会津よつば（あいづ地区）・JA全農福島県本部

福島県農業共済組合会津支所・福島県会津農林事務所農業振興普及部

近年、ばか苗病の発生が目立っています。未消毒種子を使用するときは、塩水選を行うとともに、種子消毒を確実に行いましょう。

～育苗のポイント～

1 塩水選と種子消毒をきちんと行い、病害の発生を抑えましょう。

（1）未消毒の種子は、必ず種子消毒を行いましょう。
ばか苗病などの種子伝染性病害の対策につながります。

（2）自家採種等の場合は、必ず塩水選を行い、充実した健全な種子を選びましょう。

比重 うるち：1.13

（水10L当たり食塩2.1kg、硫安の場合は2.7kg）

も ち：1.10

2 浸種を十分に行い、出芽のばらつきを少なくしましょう。

水温10～12℃で、12～14日程度を目安とします。

もみ袋には種もみを詰めすぎないようにしましょう。

水槽にも、もみ袋を詰めすぎないようにしてください。

浸種3日目までは水の交換は行わず、4日目以降は酸素供給のために毎日水を交換しましょう。

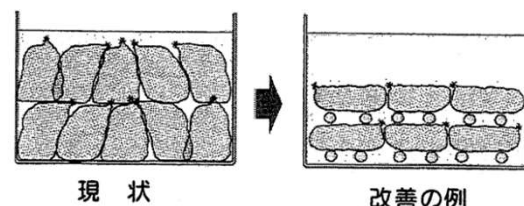


図1：浸種時の水槽のイメージ

3 苗の種類にあった適正播種量を守りましょう。

表2 苗の種類と播種量（目安）

苗の種類	播種量 (乾粃 g/箱)	育苗日数 (日)	草丈 (cm)	葉齢 (葉)
稚 苗	200	20～25	10～13	2.2～2.5
中 苗	100	30～35	13～15	3.0～3.9

表3 育苗中の温度管理の目安

育苗時期	昼間の温度	夜間の温度
緑化期	25℃	12～15℃
硬化期	15～20℃	10～15℃

4 育苗中は被覆資材を上手に使い、温度管理を行いましょう。

温度計を設置し、ハウス内の温度を確認しましょう。各時期の温度は、表3のとおりです。特に、高温による苗やけに注意をしてください。

表4 主な被覆資材の特徴例

被覆資材	資材の特徴
シルバー系フィルム (例:ミラーシート)	(利点)昼間の温度が上がりにくく、夜間の保温性がよい。 (欠点)遮光率の低いフィルムは、晴天時に苗やけが出やすい。
アルミ蒸着シート (例:本州太陽シート)	(利点)遮光率が高く、温度が上がりにくい。 (欠点)地温を上げる効果が低く、低温時には注意が必要。 アルミが剥げてしまうと苗やけが発生しやすい。

5 病害の特徴や発生要因を確認し、予防防除に努めましょう。

表5 育苗期の主な病害

病害名	病害の特徴	主な発生要因
ばか苗病	育苗の中～後期に、葉鞘および葉身が徒長し、葉色が黄化する。	・罹病種子の使用 ・種子消毒の未実施
もみ枯細菌病	幼芽の褐変、わん曲、腐敗枯死。 育苗中期以降：苗の基部が退色、腐敗して新葉が抜ける。 すり鉢状の坪枯れ症状となる。	・罹病種子の使用 ・種子消毒の未実施 ・催芽～育苗期間の30℃以上の高温多湿
苗立枯細菌病	もみ枯細菌病と症状が似ているが、葉が赤茶けて針状に枯死する。	・床土のpHが高い(5.6以上) ・床土の透水性が悪い
苗立枯病 (フザリウム属菌)	地際部及び根が褐変する。苗の基部やもみの周りに白色ないしは紅色のカビが生える。	・緑化及び硬化期間中の極端な温度変化や10℃以下の低温 ・床土のpHが低い
苗立枯病 (ピシウム属菌)	腐敗枯死症状、またはムレ苗症状。 ムレ苗症状は育苗後期に発生する。 (カビは見えない)	・緑化期以降の低温 ・野菜畑土の使用や、河川水での浸種、かん水で感染することがある
苗立枯病 (トリコデルマ属菌)	床土表面やもみ周辺に白いカビが生え、その後帯緑色から青緑色となる。 苗の地際部や不完全葉、根が褐変腐敗する。	・育苗期間の高温 ・床土のpHが低い ・播種時のかん水不足などによる床土の乾燥

表6 薬剤の例

薬剤名	対象病害	使用時期	使用方法	使用量
ナエファイン フロアブル	苗立枯病（ピシウム菌・リゾープス菌・フザリウム菌）	ピシウム菌：は種時～緑化期 その他：は種時	土壌灌注	ピシウム菌：1000倍～2000倍希釈液を0.5L/箱、 その他：1000倍希釈液を0.5L/箱
タチガレエース M 液剤	苗立枯病（フザリウム菌、ピシウム菌）	は種時又は発芽後	土壌灌注	500～1000倍希釈液を、 1箱当たり500ml
ダコレート 水和剤	苗立枯病 (リゾープス菌・フザリウム菌、トリコデルマ菌)	は種時～緑化期	灌注	400～600倍希釈液を、 1箱当たり0.5L
ルーチンアドス ピノ 箱粒剤	苗腐敗症 (もみ枯細菌病菌)	は種時 (覆土前)	育苗箱の上から散布	1箱当たり50g 高密度に播種する場合は 1kg/10a1箱当たり50～100g

栽培に関するお問い合わせは、お近くのJA(西部営農経済センター58-3717、東部営農経済センター62-4211)もしくは会津農林事務所農業振興普及部(29-5306)へ御連絡ください。

倒伏軽減、高温対策や食味向上のため、ケイ酸を含む土づくり資材を投入しましょう！

